

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学だより

WW ぶどうの樹



発行者 長崎学院
 企画・編集 総務課企画広報係
 〒851 2196
 長崎市横尾 3 15 1
 TEL095 840 2000(代)
 FAX095 840 2001
 kikaku@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

新たな出発

二〇〇七年度の展望

学長 池田 紘一



長崎外国語大学も長崎外国語短期大学も、本年四月から、教育のいっそうの充実を目指して大きく変わりました。

大学では、二年生から専門コースに所属して、一つの外国語とその国や地域の文化を中心に学ぶことになつていますが、本年度からはコース編成を見直し、従来の英語イギリス文化と英語アメリカ文化の二コースを「英語英米文化コース」に一本化しました。

英語教員全員が総力を結集し、一丸となつて、本物の英語力を鍛えるためです。また、英語は全学生が一年次に月曜から金曜まで毎日学習する重要な科目でもあり、これに今まで以上に力を傾注するためでもあります。ちなみに、一年次には全学生が、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、日本語(留学生用)の

中から一つの外国語を選んで、やはり月曜から金曜まで毎日授業を受けます。複数外国語を徹底して学び複眼的な視点を養うという本学の特色を生かすためです。

さらに、英語英米文化、ドイツ語ドイツ文化、フランス語フランス文化、スペイン語スペイン文化、中国語中国文化、日本語日本文化の各コースに加えて、本年度から新たに「比較社会文化コース」を設けました。

外国語大学国際コミュニケーション学部を標榜し、異文化を対象としている以上、「比較」はどのコースにおいても重要な観点ですが、「比較社会文化コース」はこの観点に焦点を絞り、特定の言語や地域の境界を越えて多角的なものを見る目を養うことが狙いです。

民俗、法、宗教、歴史、教育など、どちらかといえば社会的側面に力点を置き、実地調査や聞き取り調査を重んじ、外国語大学に外国語の枠にとどまらない厚みと豊かさを加えることを意

図しています。

短期大学は英語学科のみの一学科ですが、コースを「こども英語コース」と「キャリア英語コース」の二コースに分け、これに合わせてカリキュラムを大幅に改めました。将来の進路への明確な目的意識をもつて英語を学ぶためです。

「こども英語コース」は、昨今重要視されている低年齢児からの英語教育の専門家育成するのが狙いです。

中学英語教員免許状取得に加えて、保育士国家試験の試験対策のバックアップも行います。

「キャリア英語コース」は、特に観光・ホテル・エアライン関係の職業を視野に入れて英語を学びます。

日韓の交流の深まりと長崎の地理的特性を顧慮して、英語以外に全員が韓国語を集中的に学ぶのもこのコースの特色です。

さらに特記すべきは、このコースでは「旅程管理官(国内・国外添乗員)の国家資格を授業内で取得

できることです。実はわが長崎学院は昨年末、九州では唯一、学校法人としては全国で初めて、国土交通大臣指定「旅程管理研修機関」の認可を受けました。

これは一般社会人に開かれた研修機関ですが、短大生は特別にコース内の授業として受講できるのです。そのため海外研修もカリキュラムに組み込まれています。

以上のように二〇〇七年度は、大学と短大の新たな船出の年です。二年生以上の学年は引き続き従来のカリキュラムに拠りますが、この改革の精神は、全学年に浸透させなくてはなりません。

しかし、すべてを絵に描いた餅に終わらせないこと、これが肝要です。特に本誌創刊号で述べました「語学力」と「人間力」の養成という本学の教育目標、特に「人間力」の育成は容易なことでは実現不可能です。

そのためには学生の意識改革と全学をあげた学生支援が必要で、そして何よりもこのような方針に対する保護者の理解と協力が不可欠です。一致協力して、目標の実現に邁進したいと考えています。

『旅程管理研修』のご案内



学校法人長崎学院（長崎外国語短期大学）は、添乗員/ツアーコンダクターに必須の『旅程管理主任者』資格の研修機関として国土交通大臣への登録を完了し、平成19年4月より研修を開始いたします。

学校法人としては全国ではじめて、また国土交通省九州運輸局管内でもはじめての研修機関となりました。

これにより「添乗員/ツアーコンダクター」を目指す学生はもとより、旅行業に関心を持ち、旅程管理主任者資格を取得したいと考えるみなさまの希望の実現に貢献できると考えています。

・**旅程管理主任者資格の概要**
平成17年4月1日の旅行業法改正により、旅程管理業務の義務付け範囲が拡大しまし

た。今まで旅程管理主任者による添乗の必要がなかった修学旅行や職場旅行等も受注型企画旅行として国土交通大臣の登録を受けた登録研修機関が実施する旅程管理研修を修了し、かつ国土交通省令で定める旅程管理業務に関する実務の経験を有する旅程管理主任者の添乗が必要となりました。

そのため旅程管理主任者資格は、今後需要の高まりが予想される資格であり、今回の研修機関登録は、長崎県内はもとより、九州の観光振興に貢献できるものと考えられます。

・**資格取得について**
資格取得には「基礎研修」と「旅程管理研修（国土交通省令において明示された基準による研修）」及び「実地研修」が必要です。本学院では特に長崎外国語短期大学の学生に向けた週1回程度の講座及び実地研修プログラムを設け、1年間で全研修課程の修了を目指します。その他短期大学生以外の方も受講できる集中研修を開催いたします。

平成十九年度『旅程管理研修』**研修生募集について**
学校法人長崎学院は、平成十九年四月より国土交通大臣の登録機関として『旅程管理研修』を実施します。

研修受講希望の方は、要項などで受講できる日時を確認し申し込んでください。
【**旅程管理研修 科目**】
旅行業法令と約款 旅行業法令 標準旅行業約款 国内添乗（業務）実務 ツアー準備・終了時の業務 バス、航空機、列車の添乗他
海外添乗（業務）実務 出入国に関する手続き 空港・ホテル・観光地での業務他
添乗英語 添乗業務に関する英会話 科目毎に「修了テスト」を実施します。
【**受講料**】要項をご確認ください。
本学の在学生（大学）・卒業生で受講希望の方は一般の受講料と異なりますので事務局まで問い合わせてください。
【**実施場所**】長崎外国語短期大学キャンパス
【**実務添乗・研修旅行**】5～8日の研修旅行を年間数回を予定しています。都合の良い日程を選んで申し込みください。参加者が少ない日程については実施できない場合もあります。
費用・・・¥120,000
～¥280,000程度
研修先・アジア、ヨーロッパ、北米など（詳細は講座内などでお知らせいたします）

研修受講希望の方は、要項などで受講できる日時を確認し申し込んでください。
【**旅程管理研修 科目**】
旅行業法令と約款 旅行業法令 標準旅行業約款 国内添乗（業務）実務 ツアー準備・終了時の業務 バス、航空機、列車の添乗他
海外添乗（業務）実務 出入国に関する手続き 空港・ホテル・観光地での業務他
添乗英語 添乗業務に関する英会話 科目毎に「修了テスト」を実施します。
【**受講料**】要項をご確認ください。
本学の在学生（大学）・卒業生で受講希望の方は一般の受講料と異なりますので事務局まで問い合わせてください。
【**実施場所**】長崎外国語短期大学キャンパス
【**実務添乗・研修旅行**】5～8日の研修旅行を年間数回を予定しています。都合の良い日程を選んで申し込みください。参加者が少ない日程については実施できない場合もあります。
費用・・・¥120,000
～¥280,000程度
研修先・アジア、ヨーロッパ、北米など（詳細は講座内などでお知らせいたします）

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学協賛

もう一つの『青い目の人形と長崎瓊子展』



～あれから80年 きずな未来へ～

主催：長崎歴史文化博物館
共催：長崎新聞社 KTNテレビ長崎

昭和2年（1927）、日米親善交流を願って、アメリカのシドニー・ギューリック牧師の呼びかけで日本の子どもたちに約12,000体の青い目の人形が贈られました。その答礼として、我が国から渋沢栄一らが中心となり「長崎瓊子」と名づけられた長崎の人形を含む日本人形58体がアメリカへ渡りました。ところが、太平洋戦争によって青い目の人形たちは大部分が処分される憂き目に遭い、現在では300体ほどが確認されるだけとなっています。

このたびの企画展は、日本全国にいまなお大切に保管されているこれらの人形をできるだけ再会させ、また長崎県が贈った長崎瓊子が里帰りする機会を通して、改めて日米両国の友好と、広く各国との交流、未来を担う子

どもたちの国際交流、世界の平和の大切さについて考える趣旨で開催するものです。

期間：2007年4月7日(土)～6月10日(日)

会場：長崎歴史文化博物館 3階企画展示室

開館時間：8：30～19：00

講演会（本学関連）

松本汎人長崎学院理事長 講演会

5月5日(土)14時～15時

1階ホール（定員140名）

休館日：4/17(火)、5/15(火)、6/5(火)

観覧料：大人800円（640円）、

高校生600円（480円）、

小・中学生500円（400円）

（ ）内は前売り、団体15名以上の場合、手帳割引料金そのほか常設展も観覧できる共通チケットも館内にて販売中（当日券のみ）。

その他の関連各種イベント等（講演会、特別講演会、ワークショップ、コンサート、アクセス他）については「長崎歴史文化博物館ホームページ」をご覧ください。

<http://www.nmhc.jp/index.html>

言葉は違っても心は一つ!

2006年度全学クリスマス礼拝

去る12月19日、本学ホールを会場に全学クリスマス礼拝が行われ、大学・短大の学生教職員・役員がともにイエス・キリストの御降誕をお祝いしました。

外語大・短大のクリスマスは、各言語コース・クラスの外語のクリスマス・キャロル合唱による賛美礼拝というスタイルが恒例になっていいます。今年も参加者全員で歌う日本語のクリスマス賛美歌に加えて、多言語による賛美の歌声が満員御礼のホールいっぱいに響き渡りました。

礼拝は小西哲郎学院宗教主任の司会で始められ、全員で



「きよしこのよる」を歌ったあと、宗教委員の大岩秀紀助教授が新約聖書を朗読しました。そして英語(アメリカ)コースが「Joy to the World」、フランス語・ドイツ語コースが合作で「Les anges dans nos campagnes」、"Teise riesel der Schnee"、スペイン語コースが「こもりうた」、英語(イギリス)コースが「Suo Gan」の各曲他をコーラスしました。

続いて友納靖史長崎バプテスト教会牧師のクリスマス・メッセージをはさんで、短大韓国語クラスが「救い主が生まれた」、初出場の職員チームが「Hail Holy Queen」、短

大英語学科が「Good King Wenceslas」、中国語コースが「明天会更好」の各曲他を歌いました。そして再び一回で「まきびとひつじを」を賛美し、最後は友納牧師の祝福をもって約一時間半の礼拝を終りました。

各言語コース・クラスから選ばれた「クリスマス聖歌隊」は規模もまちまちですが、それぞれに練習を重ね、衣装や演出をいろいろ工夫して、客席からはどのグループにも大きな歓声と拍手が上がりました。特に初出場の職員チームは、激務の合間の練習だったので、全員揃ったのは



本番の時だけだったそうです。練習の甲斐あって会場を盛り上げました。「全学クリスマス」にふさわしく、参加者一同の心が一つになった恵まれた一時でした。

(文責・小西哲郎)

本学同窓会事務局長(兼本学短期留学生科目「実習・日本」の伝統文化(書道)「非常勤講師」)である出口すゞ美さん(短大22回生卒・旧姓三石)が、2007年3月1日

付けて長崎書道会の審査員(審査員)に選ばれた(書道会では雅号「出口瑞恵」)。2年前には女性初の第28代師範

会会長も務められた。(元本学事務局長、故大越龍雄さん)雅号「大越龍雲」も第20代師範会会長であった。審

トピックス



査員としては若いパワーの出口さん。今後の活躍が楽しみである。

長崎書道会・昭和9年、長崎新聞社の前身である長崎日日新聞の社会的還元事業として書道を通じて地域文化の向上、ならびに子供たちへの幅広い教育をとの目的で設立され、今日まで半世紀を越える歴史を刻み現在に継承されている。

聖書雑感(一)

小西 哲郎

「それは人の心の中に入るのではなく、腹の中に入り、そして外に出される。」
(マルコによる福音書七章一九節)

後世の人々は、この「外に出される」ものを精神的な意味に解釈してきました。すなわち「人から出て来るものこそ、人を汚す。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来る」(二〇、二二節)のだと。それは「みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別」(二二、二二節)といった罪悪です。

しかしこの「外」の部分には直訳すれば「トイレの中に」です。つまり「出される」ものとは排泄物、平たく言うと「うんち」を指していたはず。ユダヤ教のさまざまの食事規定(宗教的な清浄・不浄とか)を背景に、食べ物が人を汚すのではない、それは腹に入ってトイレに出されるだけだ、とイエスは言ったのけたのですが、その元来のラジカルさも「外」と上品に(?)ばかして訳されると減殺されてしまいます。

(学院宗教主任)

留学報告



留学中のみなさんには、現在の生活状況や学習の進捗などを「留学報告書」で送ってもらっています。今回は、現在留学中の方のものから2つ(フランス・スペイン)を紹介いたします。それぞれの国の「今」を知ることが出来ます。

カンペール便り

フランス語フランス文化コース
三年 荒木 裕子

カンペールはヨーロッパでは観光地として知られているようで、週末になるとカテドラルや観光案内所、みやげ物屋付近は観光客で賑わいます。観光客は、フランス各地からはもちろん、イギリスやドイツからくる人も多いそうです。アジア人観光客は、私はほとんど見かけたことはなく、観光案内所の人の話によれば、カンペールには日本人観光客は良く来ると、そのほかのアジア人はほとんど来ないとのことでした。ちなみに、日本人観光客に「カンペール焼き」は非常に人気があって、そのほかには近くのゴージャンの村、ボンタヴェンなどにもよく行くそうです。

街全体は、半日で歩いて周れる程度ですが、カテドラルを中心に、お店やレストランがたくさんあって、私は大体毎週街を歩き回っています。カンペールは小さいお店が多く、街に出るたびに新しい発見があります。先日は、普通



のパン屋に見えるお店の二階が隠れたような家的な力づきのフェエなに気づきました。月曜日の午前中のマルシェでは、レアルと呼ばれる建物の中で新鮮な魚介類、野菜、果物、チーズ、肉類などが売られています。なかには日本人が働いている寿司バーもあります。

カンペールの名物は、すべて手作業で作られるカンペール焼きという陶器類、そしてクレープやガレット、バターをたくさん使ったガトーブルトンと呼ばれるケーキやビスケットなどです。陶器以外はカンペール地方に限らず、ブルターニュ地方の特産です。ビスケットはバターが多くて本当においしく、私はとても気に入っています。

カンペールの街には観光用の、カンペール焼きの絵柄が塗られたPELLE RAINが、狭い路地にも侵入してきます。最近ではクリスマス飾りのPELLE RAINにサンタの帽子を被った陽気な運転手、後ろの方にはブルトンの民族衣装を着たアコジさん二人が乗っていて、おじいちゃんや何か伝統的な楽器でブルトン系(ケルト系?)の音楽を演奏しながら、ゆっくりと街中を運行しています。

カンペールの駅からは、周辺のパリスティール県の街へ行くバスが出ていて、私は前のパカンスでそれを利用してボンタヴェン(片道1時間半)、コンカルノー(片道1

時間)などへ行きました。また海や、フランス最西端のPOINT DU LAZ 岬にも行くことができました。カンペールはそういった村や街に行くのに非常にアクセスの良い位置にあります。

ブルターニュは、美術も有名ですが、カンペールにも美術学校があつて、そこに日本人女性の方が一人在籍しておられます。SUGAの日本人の先生と、その方と何度かお茶を飲みました。近く、カンペールにも日本人会ができるそうです。フランスの方と結婚された日本人の女性が活発に活動していらつしやいます。一度、その家にお話を、来年日本文化紹介のイベントを開催するそうです。カンペールに在住している日本人は本場に少ないので、私も参加したいと思っています。

カンペールや周辺の村を観光して思ったことですが、ブルターニュに住む人々は、自分たちの文化や歴史に非常に誇りを持っていて、ブルターニュのスーパーに行くといつたところ、ブルターニュの旗をたくさん掲げた「ブルトンコーナー」が随所に展開して、ブルターニュの名産品が売られています。

スペインの冬

スペイン語スペイン文化コース
四年 堀 若菜

年末はかなり冷え込みました。年明けになると比較的暖かくなり、今年にはナバラではめずらしく暖冬でした。しかし一月末になると、雪が降り

寒くなつてきました。スペイン北部にあるナバラでは雪が足首ほどしか積もらなかったのですが、なぜか南の方では一メートル以上の雪が積もつたそうです。スペインでは秋にも南の方で洪水が頻繁に起こり、雨がよく降るはずの北部では快晴の日が続くなど、異常気象に見舞われています。冬休みは2週間、クリスマス・お正月・los reyes magos(三博士)と毎日が fiesta(パーティー)でした。スペインではクリスマスに「エロン(トウロン)」というアーモンドでできたお菓子や、polvoron(落雁のようなお菓子)、manecado(ポルボンに似てラードでできたお菓子)、乾燥フルーツなどを食べます。こちらのクリスマスは家族・親戚が集まつてこれまでの一年を振り返り、これからの抱負を語り合うので、まるで日本のお正月のようでした。

大晦日の夜は、前菜(さまざまな種類のハムとチーズ)、サラダ、スープ、海老、蛙の炒め物、ステーキ、フルーツ、お菓子など日本分という、一日のうち何日分の食事をしたのだろうと思うくらい食べました。夕食後は各自ブドウを十二粒用意し、テレビ放送されるマドリッドの十二時の鐘が十二回鳴ると同時に口に入れていきます。それが終わると、皆に握手と相手の両頬に一回ずつキスをして「Felicitades(あけましておめでとう)」と祝うの



です。冬休み最後のイベント「los reyes magos」は一月五日の夜にあります。スペインではこの三賢人がサンタクロースの代わりに、こどもたちにプレゼントを渡します。三人の名前は Melchor(メルチョール)、Gaspar(ガスパール)、Baltasar(バルタサル)です。順にヨーロッパ・アジア・フリカからきたことになっていて、三大大陸すなわち世界を示します。夜七時にはカーニバルがあり、子どもたちが大勢集まり、パレードに登場する三人に「calaveras(三(飴)ちょうだい!!)」と叫んでいます。

ブレゼントは五日の夜、寝ている間に靴の上に置かれるので、前もって靴を磨きます。そしてお酒とクッキーを三人のために置いておきます。翌朝、靴を見ると、そこにはブレゼントがあり、お酒もクッキーも食べた後があるので、これで三人が来たことがわかります。子どもたちは一週間前に欲しいものを手紙に書いて専用ポストで送っているのだから、自分の希望のものかどうかドキドキしながら包みを開けていきます。

スペインの冬休みはこのように毎日「fiesta」で、朝まで食べて騒ぐという日々でした。スペインの行事には大変貴重で、このような経験ができたことをうれしく思います。お正月には少し日本食や家が恋しくなりましたが、こちらの家族のおかげで楽しく過ごせました。あと半年まで日本に戻るの、それまでたくさん思い出を作ってくださいと思います。